

平成 26 年度事業実施報告書

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)

はじめに

平成 26 年度は、従来からの食育推進活動に加えて、「学校給食用非常食救給カレーの普及促進」、「すこやか情報便 17 号及び日本の学校給食パンフレットのそれぞれ日本語版・英訳版の作成」、そして「復刻版紙芝居 CD の作成」を重点的に取り組んで参りました。

この中で、公益社団法人全国学校栄養士協議会との共同開発により完成した、学校給食用非常食『救給カレー』の普及浸透に向けた取り組みに協会挙げて対応してまいりました。各自治体の節目の日の給食メニューの一つとして取り扱われるとともに、防災課、教育委員会、学校長、都道府県学校給食会等のネットワークを活用することにより、防災教育・防災訓練の食材として使用して頂きました。

次に、新たな取り組みとして、機関情報誌すこやか 17 号及び日本の学校給食パンフレットの英訳版を作成し、日本の学校給食の素晴らしさを世界に発信するとともに、海外から英訳版が見られる様、英語版ホームページを改良しました。

又、平成 24 年より着手した復刻版紙芝居は先生方のご意見を踏まえて、当初考えていた紙仕立てから CD 仕立てに変更して制作、関係先に無償にて配布する事が出来ました。

詳細については、以下のとおり報告致します。

公 1 食育推進事業

I. 食育の推進に関する活動

1. 普及活動

1) 調理講習会

開催状況：23 都道府県 29 ケ所 参加者 1,056 名
(前年実績：26 都道府県 31 ケ所 1,091 名)
実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

2) 親子料理教室

開催状況：24 都道府県 80 ケ所 参加者 3,093 名
(前年実績：28 都道府県 101 ケ所 4,199 名)
実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

3) 講師の派遣及び紹介

(公社)全国学校栄養士協議会や(公財)都道府県学校給食会等からの要請により研修会や調理講習会等に講師の紹介及び講師を派遣しました。

○講演講師の紹介

<講師> 淑徳大学 客員教授 田中延子氏
テーマ 「学校給食フォーラム：今こそ考えよう 子ども達の食と学校給食の役割」
日時 平成 26 年 9 月 13 日
主催 新潟県酪農業協同組合連合会・新潟県飲用牛乳協会 約 200 名
会場 ANAクラウンプラザホテル新潟

<講師> 東京都立広尾病院 小児科部長 原 光彦氏
テーマ 「子どもの肥満とやせ」
日時 平成 26 年 11 月 7 日
主催 長野県学校保健会 栄養教諭・学校栄養職員部会 参加者 223 名
会場 長野県総合教育センター

<講師> (公財)学校給食研究改善協会 管理栄養士 大留光子氏
テーマ 学校給食における和食をとおした食育推進
日時 平成 26 年 11 月 27 日
主催 島根県学校栄養士会 参加者 27 名
会場 (公財)島根県学校給食会

○調理講習会への派遣

<講師> 管理栄養士 幸田真紀子
東京都、秋田県、岡山県、愛媛県、北海道(札幌)、熊本県

<講師> 管理栄養士 大留光子
佐賀県、京都府、富山県、北海道(ホーツ)、茨城県、島根県、神奈川県

<講師> 管理栄養士 小原扶美子
新潟県

4) 紙芝居の普及について

平成 24 年度より着手した復刻版紙芝居は、当初紙芝居の作成と頒布を想定して取り進めてまいりましたが、改めて先生方にアンケートを実施し、紙芝居の活用実態について確認しました。その結果、学校現場では手作りで対応されている事が多く又、先生方からのご希望を踏まえて、CD版に変更し、食育教材の一つとして無償で配布しました。その結果各方面から高い評価を頂戴し、活用範囲が広がっています。

2. 広報活動

1) 機関情報紙「すこやか情報便」の発行

本機関紙は、学校給食関係者への学校給食及び食育に関する情報を提供する機関紙です。発刊後、「各種講習会や講演で配布したい」「行政や教育現場で、資料として利用したい」との要望も寄せられ、都度送付して活用頂いています。

「すこやか情報便」第 17 号 (平成 26 年 11 月 28 日発行)

『～子どもの健やかな成長のために～ 学校給食における牛乳・乳製品の役割』

日本の和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことをきっかけに、学校給食において和食と牛乳は合わないといった見解や報道が聞かれるようになりました。

そこで本号では、学校給食における牛乳・乳製品の役割、カルシウムの摂取について、現代の子ども達の栄養学的な課題について、学校給食において日本の食文化を指導するにあたり心がけたいこと等について、座談会にて討議しました。

そして成長期の子ども達にとって、牛乳・乳製品は不可欠の食品である事、日本食・和食・食文化を学校給食の教材として正しく指導、伝達していかねばならないとの発信を致しました。

又、以前よりすこやか情報便の英語版作成を検討して参りましたが、今回初めて英語版を作成しました。

<座談メンバー> (50 音順)

川口市立芝富士小学校 校長

大澤正則

小平市立小平第六小学校 栄養教諭

白井ひで子

新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科健康栄養学分野 准教授 塚原典子

神奈川県立保健福祉大学 学長 (公社)日本栄養士会 名誉会長 中村丁次

<コーディネーター>

(公社)全国学校栄養士協議会 会長

長島美保子

2) 「日本の学校給食」パンフレットの日本語版、英語版作成

世界一と言われる素晴らしい日本の学校給食の取り組みを国内外に広く伝える為に「日本の学校給食」パンフレットの日本語版と併せて英語版を作成しました。

来年度に向けてすこやか情報便 17 号とともに、様々なルートを通じて幅広く発信してまいります。

3) ホームページの更新、充実

協会の新たな活動内容、学校給食関連の最新情報の発信およびレシピ内容共有の場として、ホームページを充実すると共に、外国からホームページが見れる様、英語版のページを新設しました。

4) 学校給食用優良食品・学校給食用脱脂粉乳の普及拡大

機関情報紙、ホームページ、調理講習会および脱脂粉乳事業推進委員会等の機会を通じて、当該製品の一層の普及を図り、使用拡大に努めてまいりました。

又、一昨年 11 月完成の災害時の学校給食用非常食「救給カレー」の普及に向けて、様々な活用事例を共有化して、積極的に取り組んでまいりました。

5) ニュースレターの拡充

今年度も引き続き「改善協会ニュースレター」として年 10 回、全国約 300 名（含む、法人）の学校給食関係者および学校給食関係者以外の人々に対し、協会内で吟味した学校給食や食育に関する情報を提供してまいりました。

6) 学校給食・食育をテーマとした絵画及び救給カレーの展示

下記のイベントや大会に絵画及び救給カレーを展示し食育の推進に努めました。食育推進全国大会では学校給食関係者以外の一般の方々にも広く学校給食の現状を知らせ、食育の普及に努めました。

【平成 26 年度の各種大会実施内容】

春のキッズフェスタ (5 月 24 日 東京都)

第 9 回食育推進全国大会 (6 月 21~22 日 長野県長野市)

第 55 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 (7 月 30~31 日 福井県)

野菜フェスタイン WAKAYAMA (8 月 30 日 和歌山県)

災害時食支援ネットワーク検討会 (9 月 26 日 東京都)

第 65 回全国学校給食研究協議大会 (10 月 30~31 日 山口県)

平成 26 年度文部科学省主催学校給食週間行事への参加 (平成 27 年 1 月)

平成 26 年度農林水産省主催学校給食週間行事への参加 (平成 27 年 1 月)

II. 学校給食事業に関する助成

下記の団体に対し事業運営費の助成を行いました。

1. (公社) 全国学校栄養士協議会 (会長 長島美保子)
2. (一社) 日本学校調理師会 (会長 高瀬トヨ子)
3. 「食と次世代の健康研究会」 (代表 福岡秀興)
研究課題：学童期及び若年女性の栄養摂取およびライフスタイルの調査

III. 学校給食の状況に関する調査研究等の活動

1. 中学校における給食実施率の向上を図るため、実態調査の継続

本年度は中学校給食の実施率の低い政令指定都市の実態及び各都道府県の最新取り組み状況を取り纏めて、情報発信して参りました。今後は、中高一貫校の取り組み状況についても調査し、都道府県レベルの調査結果と合わせ、各方面にご活用いただけるような資料の作成を行ってまいります。

2. 給食関係者との連携強化

品質等調査研究員（モニター）制度「任期2年」は、(公社)全国学校栄養士協議会の協力を得て47都道府県の栄養教諭・学校栄養職員の先生方の中からモニターを担当して頂き、学校給食の食材等に関する意見や提言を受ける制度です。8回目の今期（平成26年4月～平成28年3月）の前期平成26年4月～平成27年3月の実績は139件の返信数となりました。

3. 海外視察

海外の学校給食実施状況を視察することを計画しておりましたが、予算が厳しいため取り止めさせて頂きました。

IV. 給食物資に関する調査研究並びに供給

1. 学校給食用優良食品開発研究

1) (公社) 全国学校栄養士協議会との共同事業である災害時の学校給食用非常食『救給カレー』の次なる製品開発として『仮称救給ライスバー』の開発に向けて取り組んで参りましたが、開発チームの先生方が目指す製品仕様が開発できず、夏場に開発を断念しました。その後、先生方によるアンケート及び開発会議での討議を踏まえて、第二弾は主菜の「具だくさん汁物」、開発コンセプトは第一弾を継承して進める事に決定しました。次年度に向けて具体的な製品仕様、対応メーカー、生産工場等の検討を進めてまいります。

2) 学校給食関係者、品質等調査研究員（モニター）の意見を踏まえ、継続して全学栄養すいせん製品の開発・改良及び地域開発製品の開発に取り組んでまいります。

2. 全学栄製品・全学栄すいせん製品の認定業務

本年度は 7 件の全学栄製品及びすいせん製品の規格変更及び表示変更があり、(公社) 全国学校栄養士協議会の理事会で承認を得ました。(承認順)

- ・全学栄すいせん製品「すだちゼリー」 (マルハニチロ(株))
容量 50g を 40g に変更、蓋材をプラスチック素材から紙素材に変更
- ・全学栄すいせん製品「つぶつぶりんご&カムカムゼリー」 (マルハニチロ(株))
容量 50g を 40g に変更、蓋材をプラスチック素材から紙素材に変更
外装ダンボール 2 合を 4 合に変更、蓋デザインの変更
- ・全学栄すいせん製品マルハニチロ品の企画入数の変更 (マルハニチロ(株))
ブルーベリーゼリー C F E 40g、北海道牛乳プリン 30g
すだちゼリー 40g、白花豆コロッケ 40g、60g
デザート類は 2 合を 4 合に変更、コロッケは 1 ケースを 2 合に変更
- ・全学栄すいせん製品「スクールグラタン」容量変更及び配合改良 (マルハニチロ(株))
容量 65g を 60g に変更、配合は風味改良
- ・全学栄製品「全学栄グリーンボール」の改良 (株)ハートフーズ 21)
以前販売していた三色ボールを参考にして「野菜ミックスボール」として開発
- ・全学栄すいせん製品「スクール糸かまぼこ」 (株)スギヨ
アレルギー小麦の除去、乳酸Caの除去
- ・全学栄すいせん製品「スクールかにボール」 (株)ハートフーズ 21)
アレルギー卵と小麦除去、添加物除去

また、「全学栄すいせん製品 製造工場認定基準」により、4 メーカー、7 工場の製造工場査察を実施しました。

- ・(株)スギヨ北海道工場 平成 26 年 11 月 11 日 「全学栄すいせん製品スクールかに」
北陸工場 平成 27 年 2 月 5 日 「スクールちくわ」
関東工場 平成 27 年 2 月 16 日 「糸かまぼこ他」
北陸七尾工場 平成 27 年 2 月 6 日 「うの花コロッケ」
- ・雪印メグミルク(株)阿見工場 平成 26 年 12 月 2 日
「全学栄すいせん製品ベビースーズ他 2 品」
- ・(株)ソイフード 町田食品(株) 平成 26 年 12 月 3 日
「全学栄すいせん製品スクールがんもどき」
- ・(株)明治 平和食品工業(株) 平成 27 年 3 月 24 日
「全学栄すいせん製品ニューミートップ」

3. 学校給食用脱脂粉乳供給事業

学校給食において米飯給食の増加により脱脂粉乳の使用量は減少しておりますが、為替においては、上期のメリットを下期で相殺するという急激な変化はあったものの、国際市況が下落し、期を追うごとに買い入れ費用が低減できました。これらの買い入れメリットは配分先の各県に期末還元を行いました。

V. その他

「学校給食普及改善委員会」を開催

学校給食普及改善委員の任期は 2 年となっており、年 1 回の会議を実施しておりますが、平成 26 年 12 月 13 日に会議を実施しました。

すこやか情報便 17 号の紹介と英語版作成の経緯についてご案内し、併せて救給カレーの取り組み状況および中学校給食の取り組み状況について説明、推進委員方々からもご意見を頂きました。

又、すこやか次号のテーマである「食物アレルギー対応」について、給食現場の状況を踏まえて多くの意見が次々に出て、積極的な意見交換が出来、たいへん充実した委員会となりました。

その結果、普及改善委員相互の情報の共有が出来、理解も深まって、大きな成果がありました。年度末には、当日の貴重な発言記録も各委員にお届けしております。

公 2 国産食肉需要構造改善対策事業

本年度は（独）農畜産業振興機構の公募を見送りました。